

先輩職員インタビュー

運行管理者等指導講習業務

函館支所 チーフ

2015年入構



講師として、運送事業者における輸送の安全確保をサポート



—入構の決め手は何ですか。

正直なところ、ナスバが第一志望というわけではなく、複数ある志望先の一つでした。しかし、友人の家族の利用施設がナスバの療護施設であることを知り、療護施設の実態を見たことで被害者援護業務に対する解像度が高まりました。元から興味があった安全指導業務と合わせ、自動車事故対策の専門機関というイメージが自分の中で固まり、他では経験できない仕事に魅力を感じ入構を決意しました。

—業務の役割を教えてください。

運行管理者に対する指導講習を行っています。運行管理者はバス、ハイヤー・タクシー及びトラックなどの自動車運送事業者を選任され、法令に定められた安全確保に努めています。講習会を通じて、自動車運送事業者の安全への取組をサポートしています。

実際の指導講習では講師として壇上で講義を行います。指導講習の種類や対象者によって講義内容が変わるため、運行管理に関する基礎的な知識から最新法令、事故・違反の再発防止策等の幅広い知識が必要になります。また、指導講習の年間開催スケジュールの調整や会場確保、開催当日の会場整備等のイベント運営にも携わるため非常に幅広い業務を経験できます。



寄り添うナスバ 頼れるナスバ

—やりがいは何ですか。

講義内容を工夫し、それが上手く受講者に伝わったときにやりがいを感じます。「わかりやすかった」

「会社に戻ったら実践したい」との声をいただくと励みになります。

内容を分かりやすく説明するのは大前提です。内容の理解にとどまらず、納得して実際に行動に移してもらうことが大切だと思っています。そのために必要な納得感を生む講義資料の作成、法改正の背景理解、地域に合わせた具体例の工夫をいつも心掛けています。

—職場の雰囲気やよいところはありますか。

ナスバは自分の成長を実感できる職場です。若手職員でも大きな仕事を任されるチャンスにあふれており、自分次第でいくらでも新しいことに挑戦できます。

また、業務の幅が広いので部署異動により、全く新しい知見を得られます。現在は指導講習業務を担当していますが、入社1年目に運転適性診断業務、2年目に被害者援護業務、3年目から総務経理を担当してきました。その経験が現在の講義の説得力になっていると思います。

自分の「可能性」と「夢」を見つめて



—将来の目標を教えてください。

現在携わっている指導講習業務は運行管理者が対象です。しかし、自動車運送事業者における輸送の安全確保は運行管理者の取組だけで達成されるものではありません。事業者、運行管理者、運転者の三者が協力することで達成されます。

今後は事業者に対する安全マネジメント業務を通じ、社内の安全文化の醸成の助けができればと考えています。まずはそのために必要な安全評価員等の資格を習得するのが目標です。

—最後に学生の方に向けてメッセージをお願いします。



ナスバの業務は自動車運送事業者や自動車事故被害者の方を対象にしたもので、一般の方とは直接関わる機会は少ないかもしれませんが、周りに目を向けるとバスやタクシーの公共交通機関が存在し、我々が手にする商品の数々もほぼ確実にトラック輸送で店頭に並んでいるはずで、ナスバはそんな誰もが必ず関わっている自動車社会を、自動車運送事業者と共に安全・安心・快適なものにする非常にやりがいのある仕事ができる組織です。皆様と共に働けることを楽しみにしています。

自己紹介

2015年4月入構 商学部企業法学科卒

新規採用で札幌主管支所に配属。その後も北海道内で勤務し、2021年より函館支所で勤務。

観光地として名高い北海道！有名観光地から穴場スポット、温泉、グルメを楽しんでいます。最近では職場でスキー板を譲ってもらい、10年ぶりにスキー復帰しました。まだまだ新規開拓の日々を過ごしています。



先輩職員インタビュー

指導講習業務

鹿児島支所 チーフ

2018年入構



輸送の安全安心に寄り添うナスバの指導講習



ー入構の決め手は何ですか。

ナスバが全国の自動車事故の削減に取り組んでいる組織であることが決め手となりました。私が転職活動をしていた頃、連日のように自動車事故に関する報道が行われていました。

自動車事故は、被害者や加害者の人生や、その周りの方々の生活を一変させてしまうことがあり、それは突然、身に降りかかってくることもあります。そのため、自動車事故そのものがなくなってしまうと、被害者も加害者も生むことのない社会に近づけるのではないかと思います。様々な角度から、自動車事故にアプローチできるナスバの業務に魅力を感じました。

ー業務の役割を教えてください。

現在、鹿児島支所において、運行管理者等に対する指導講習業務を担当しています。

運行管理者とは【輸送の安全の責任者】であり、運行の安全確保に関する業務を自動車運送事業者に代わって行う重要な存在です。指導講習では、バス、ハイヤー、タクシー、トラックなどの事業用自動車の運行管理者等を対象に「運行管理の実務や関係法令」、「安全の確保に必要な管理手法」などの講習を行い、自動車事故の発生の防止に万全を期すことを目的としています。

ナスバでは、国土交通大臣の認定を受け、運行管理者等を対象に基礎講習・一般講習・特別講習の3種類の指導講習を実施しています。運行管理者への講習を実施していくことで、安全への取り組みをサポートし、事故削減を積極的に進めています。



寄り添うナスバ 頼れるナスバ

ーやりがいは何ですか。

自動車運送事業に欠かせない運行の安全確保に貢献できることです。私たちの生活にとって、輸送は切っても切り離せない存在です。日々の通勤、通学、緊急時の移動、食品や日用品の入手といった現代社会の基盤を支えているものが輸送です。輸送には、スピードが求められることが多いですが、その土台には、無事に人々や商品を送り届けるという安全安心が存在しており、根幹を支えています。その安全安心に貢献できる業務が指導講習であると考えています。

ー職場の雰囲気でのよいところはなんですか。

様々な意見を忌憚なく、出し合えるところです。ナスバでは、相手の話にしっかりと耳を傾ける傾聴の文化を大切にしています。職員が互いに、得意な分野と苦手な分野を出し合えることで、得意な分野では相手を支え、苦手な分野では、サポートし合える体制が整っているところが職場のよいところであると認識しています。

自分の「可能性」と「夢」を見つめて



ー将来の目標を教えてください。

「ナスバのおかげで自動車事故がなくなったよ」と言って頂けるような自動車事故防止の講師を目指していきたいです。ナスバでは、講師の育成にチカラを入れており、段階的な研修や若手職員のプレゼン強化プログラムなども開催しております。それらを通じて、新たな知見や自分の講師としての長所や改善点を客観的に知ることができる環境は、ナスバの強みであると感じています。同じ職務を全うする方々と、切磋琢磨し、1件でも事故削減へと繋げることが出来るよう尽力していきたいと考えています。

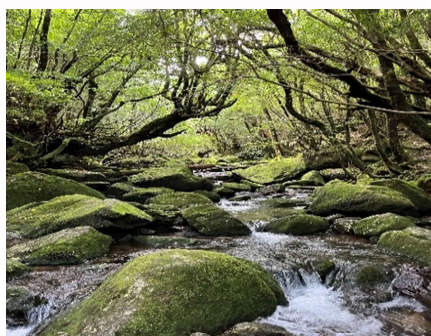
ー最後に学生の方に向けてメッセージをお願いします。



ナスバは自動車事故対策の専門機関です。普段、バスやタクシーに乗車する際に、「自動車事故に遭遇しないか心配だ」と考えることは、あまりないと思います。また、商品を注文した際に、トラックでの輸送中に、「トラブルが発生して、期日までに綺麗な状態で届かないかもしれない」と懸念される方も少数派かと感じます。それは、私たちが輸送に対して、安全安心という信頼を寄せているためだと思います。安全安心は、身体だけでなく、心の平穏にとっても欠かすことができません。ナスバは、独立行政法人という視点から、自動車の安全安心に注力することが出来る点が一番の魅力だと考えています。その点に共感頂けた方は是非、挑戦して頂けると幸いです。

自己紹介

経済学部を卒業後、名古屋主管支所の勤務を経て、現在に至ります。鹿児島には美味しい食べ物や温泉地が数多くあるため、休日に、それらを巡ることが楽しみの一つです。



先輩職員インタビュー

適性診断業務

奈良支所 スタッフ

2019年入構



ドライバーに寄り添い、ともに安全なクルマ社会の実現へ

ー入構の決め手は何ですか。



2011年3月11日の東日本大震災をきっかけに“安全で安心な暮らし”について漠然と考えるようになりました。はじめは、自然災害に関する防災マネジメントやBCP等に興味を持ち勉強をしておりましたが、次第に“より身近な安全”について考えるようになり、交通事故の防止に興味を持つようになりました。

入構の大きな決め手は、交通事故の防止に関係する業務を担う組織の中でも特殊な独立行政法人という組織であることです。民間には真似できない業務を実施できる組織であることに惹かれ入構を決めました。

ー業務の役割を教えてください。

私は現在、奈良支所において適性診断業務に従事しています。適性診断とは、一言でいうと「個性」を見分けるものです。「十人十色」という言葉にもあるように、自動車の運転にもその人独自の色（個性）があります。そして、その個性の中には安全運転を促すものと、事故に繋がるかもしれないものがあります。それを前提に、業務内容を記述すると以下ようになります。

① 前述の両者を見分けるために「PCを使用した診断」を実施。

② ①で見分けた色（個性）を材料に、フェイストUFFフェイスで事故防止・再発防止に向けて一緒に考える場の提供である「カウンセリング」を実施。

これが適性診断担当のメイン業務です。その業務の中で、日々、さまざまな運転者の方に出会い、安全運転への方策を運転者と一緒になって考えていくことができるため、ダイレクトに運転者の変容が感じられることが醍醐味です。



寄り添うナスバ 頼れるナスバ

ーやりがいは何ですか。

適性診断を受診するために来所される方は、日々トラックやバス、タクシーなどを運転されているプロドライバーです。交通事故との距離が一番近く、交通事故を起こしたくないと一番強く考えている方です。カウンセリングを通してそのような方々の安全運転をサポートする業務を実施しています。成果が見えにくい仕事ではありますが、カウンセリングをした方が事故を起こさずに日々運転されていることがやりがいとなっています。

ー職場の雰囲気でのよいところはなんですか。

いくつかありますが、人間関係が良好であることが一番だと感じています。

一人ではしんどいと思う仕事であっても、周りの方が気にかけて声をかけてくれるので、相談もしやすく頑張れます。

プライベートの話も気軽にできますが、プライベートに踏み込みすぎないちょうど良い距離感があることも雰囲気の良さにつながっていると感じています。

自分の「可能性」と「夢」を見つめて



ー将来の目標を教えてください。

今後挑戦していきたい業務は、「被害者援護業務」です。今までは、事故防止等の「防ぐ」という業務をメインに担当してきましたが、交通事故被害者への支援「支える」という業務を通して、被害者の方に寄り添いながら、様々な形で支援をしていきたいという強い気持ちがあります。被害者の方からの声を集めて、形にしていく。時には、既存の枠を超えて新しい形を提供していく。それが使命であり、やりがいを感じる部分であると考えています。

ー最後に学生の方に向けてメッセージをお願いします。



今まさに人生の大きな岐路に立ち、悩み、考え、毎日を必死に駆け抜けていることと思います。人生においてこれほどまでに自分自身と向き合い、考え抜く機会はないと思います。だからこそ妥協せず、「その先に何をみるのか」、「どうしたいのか」を時間が許す限り悩み抜いて下さい。そして就職活動の中で、自動車事故対策機構の「NASVAでしか出来ない仕事を担う」ということに魅力を感じた方は、ぜひチャレンジしてみてください。

自己紹介

趣味は好きなアーティストのライブに行くことです。

1回のライブツアーで福岡や北海道に足を運びました！

旅行や旅行先等で美味しいご飯やスイーツを食べることも趣味のひとつで、休日には美味しいと噂のお店に足を運んでいます。

また、最近カメラを購入したので、カメラを持って散歩をしつつ風景や神社などの建物や花などを撮影することが新しい趣味です。



先輩職員インタビュー

適性診断業務

高松主管支所 スタッフ

2021年入構



ドライバーに寄り添い、安全運転へと導く適性診断業務



—入構の決め手は何ですか。

ジョブローテーションの中で、安全指導業務と被害者援護業務の両方に携わることができるところです。自動車事故という一つのテーマに対して「事故の発生防止」と「被害者の支援」という全く違う方向からアプローチしているところに魅力を感じました。

実際に被害者援護業務から安全指導業務への配置換えを経験していますが、被害者の方やご家族と接する中で感じてきた思いが原動力になっています。

—業務の役割を教えてください。

ナスバネットという適性診断システムを用いて、主にトラックやバス、タクシーなど事業用自動車の運転者の方を対象に適性診断を実施しています。一人ひとりの受診結果から事故につながりやすい危険な「くせ」や性格の特性を見出してそれに応じた助言指導（カウンセリング）を行います。カウンセリングでは適性診断の結果とあわせて自身の日頃の運転ぶりを振り返っていただき、安全運転を続けていくための目標を一緒に考えていきます。

また、ナスバネットを導入することで自社内で適性診断を受診できるようにしている企業もあるため、導入に関する相談や機器の不具合などに関する対応も行います。状況によっては企業を訪問し、診断機器の調整をすることもあります。



寄り添うナスバ 頼れるナスバ

—やりがいは何ですか。

受診者の方と1対1でお話する中で、意識の変化を直に感じられるところにやりがいを感ずみます。最後に「今日は来て良かったです。これからも安全運転で頑張ります」とお礼を言って帰っていただけた時は心からうれしく思いますし、受診者の方の「絶対に事故を起こしたくない」という強い気持ちに触れるたびに自分ももっと頑張っていこう！と思えます。

ー職場の雰囲気やよいところはなんですか。

上司や先輩に業務内外の相談をしやすいところです。私はナスバに入構するまで関係分野の勉強をしたことがなく当初は不安もありましたが、分からないことがあるときや悩んだときにはその都度周りに相談し、教えてもらいながら業務を進めることができています。また、同じ事務所内に限らず、近隣の支所とのつながりも強いです。四国にある他の支所の先輩方に業務の相談をすることも多いですが、快く対応してくださる方ばかりでとても心強い存在です。

自分の「可能性」と「夢」を見つめて



ー将来の目標を教えてください。

適性診断担当としての経験を積み、引き出しが多いカウンセラーになることです。短い時間の中でも受診者の方の意識変容につなげられるよう、話す内容や問いかけ方などの引き出しを増やしていきたいです。また、適性診断をさらに多くの方に広めていくことも目標の一つです。適性診断はどなたでも受診できるものなので、プロドライバーに限らず車を運転するすべての方に自分の運転ぶりについて改めて考えるきっかけを持っていただけたらと思います。

ー最後に学生の方に向けてメッセージをお願いします。



ナスバの業務は多岐にわたり、若手のうちから様々な業務に携わることができる環境です。皆さんがこれまでに身につけてきた知識・経験を活かせる分野や、長い年月をかけて究めていきたいと思う分野もきっと見つかると思います。

内部研修や資格取得制度も充実しているので、ナスバの業務に少しでも興味があればチャレンジしてみてくださいたらうれしいです。

皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。

自己紹介

教育系学部を卒業後、大阪主管支所および兵庫支所での勤務を経て現在に至ります。

高松に転勤してきて半年がたちました。

休みの日には四国の観光を楽しんだり、

海を見に行ったりしてリフレッシュしています。

